

保育者が感じる子どもからのうれしい言葉とドキッとした言葉

○石上 智美 富樫 美奈子 徳田 克己
(筑波大学大学院) (茨城キリスト教大学) (筑波大学)

I はじめに

保育者にとって、子どもの言動は仕事の励みや活力になるものである。また、子どもの何気ない一言によって、自らの行動や態度を省みることもある。

そこで本稿では、保育者は子どもからのどのような言葉に喜びを感じるのか、またどのような言葉にドキッとするのかを調べた結果を報告したい。

II 方法

(1) 調査対象者:I 県保育士大会に参加した保育所保育士に対して調査用紙を配布し、146 名より回答を得た。なお、大会参加者の正確な数が不明であるため、回収率は算出できなかった。年齢別の内訳は、20 代 38 名、30 代 20 名、40 代 60 名、50 代 25 名、不明 3 名であった。
(2) 調査手続き:調査協力者である大会主催者より、調査の主旨を説明してもらい、留置法によってデータを回収した。今まで子どもから言われてうれしかった言葉、またドキッとした言葉について、自由に記述するように求めた。調査は無記名で行われた。調査時期は 2002 年 11 月であった。

III 結果と考察

(1)うれしかった言葉

表 1 には、子どもから言われてうれしかった言葉をまとめた結果を示した。表 1 より以下のことが確認された。

①最も多かった回答は「先生大好き」という言葉であり、約半数を占めた(70 名、142 名中の 49%)。保育者にとって、子どもたちから好かれていることは何よりの喜びと言えよう。また、「一緒に～しよう(遊ぶ・ごはんを食べる・寝るなど)」(21 名、15%)や「お母さん・ママ」(10 名、7%)という回答がみられた。このように、子どもたちに必要とされていることや信頼されていることもうれしいことなのである。

②遊び・運動会・遠足などに対する「楽しかった・おもしろかった」(23 名、16%)という言葉、また保育者が行うピアノ・歌・折り紙などの活動に対する「先生すごい・上手」(15 名、11%)という言葉が上位に挙げられた。このように、子どもからポジティブな言葉をフィードバックされることによって、保育者は喜びを感じると同時に、保育活動に対する自信を感じる。

表 1 子どもから言われてうれしかった言葉

うれしかった言葉	名	%
先生大好き	70	49
先生かわいい・きれい	39	27
ありがとう	29	20
楽しかった・おもしろかった(遊び・運動会・遠足など)	23	16
一緒に～しよう(遊ぶ・ごはんを食べる・寝るなど)	21	15
先生大丈夫?(ケガをしたとき・病気で休んだときなど)	15	11
先生すごい・上手(ピアノ・歌・折り紙など)	15	11
先生やさしい	14	10
～してあげる(お手伝い・おやつを半分分ける・おもちゃを貸す・先生を守るなど)	11	8
お母さん・ママ	10	7
～できた・できるようになった	10	7
先生・～先生	10	7
先生がいなくてさびしかった	9	6
保育園大好き	7	5
明日も来るね	7	5
先生がいいな(年長になっても・クラス替えをしても)	5	4
先生がんばって	5	4
先生明日も来てね	4	3
髪切ったの?	4	3
おはよう	4	3
大きくなったら～してあげる(大工になって家を建てる・温泉に連れて行くなど)	4	3
その他	31	22
有効回答数	142	

(複数回答)

③ケガをしたときや病気で休んだときの「先生大丈夫?」(15 名、11%)という言葉、またお手伝いしてあげるや先生を守ってあげるなどの「～してあげる」(11 名、8%)という言葉が挙げられた。このような子どもたちからのやさしい言葉は、保育者のストレスを軽減したり、仕事の励みになるのである。

④その他の回答のなかには、「(紅葉を見て)葉っぱがおしゃれしてるね」や「(サナギからかえった様子を見て)

「チョウチョさんよかったね」などのように、子どもの成長ややさしい気持ちを感じられる言葉が挙げられていた。

(2) ドキッとした言葉

ドキッとした言葉については内容が多岐にわたっていたため、カテゴリ分類を行い、その結果を表2に示した。

表2 子どもから言われてドキッとした言葉

ドキッとした言葉	名	%
保育者の行動・態度に関する言葉	72	66
保育者・保育園・他の子どもに対する否定的な言葉	23	21
保育者の年齢・容姿に関する言葉	22	20
乱暴な言葉・子どもらしくない言葉	19	17
家庭のことにに関する言葉	11	10
子どものことにに関する言葉	10	9
有効回答数	109	

(複数回答)

表2によると、群を抜いて多かったのは「保育者の行動・態度に関する言葉」(72名, 66%)であった。また「保育者の年齢・容姿に関する言葉」(22名, 20%)も挙げられている。子どもは保育者のやることや様子をよく見ているが、保育者はそのことに気づいていないため、子どもからの言葉によってドキッとすることになるのであろう。

また保育者自身のことだけではなく、「乱暴な言葉・子どもらしくない言葉」(19名, 17%)や「家庭のことにに関する言葉」(11名, 10%)が挙げられた。子どもの言葉遣いの乱れに気がついたり、家庭の話題に耳を傾けたりすることは、子どもの状態を把握するために必要なことである。

以下に、表2に挙げた6つのドキッとした言葉について、それぞれ具体的な内容を述べる。

① 保育者の行動・態度に関する言葉

* 保育者の行動・態度を「注意する言葉」(72名中24名)が最も多かった。具体的には「先生だって～してないでしょ」、「どうして～食べないの?」、「いつも話を聞いてくれないんだから」、「まちがったらごめんなさいでしょ」、「子どもの物を使っちゃだめ」、「名前を呼び捨てにしちゃだめ」、「好き嫌いしちゃだめ」、「自分の都合のいいように命令しないで」、「この前約束したのにどうしてやってくれないの?」などであった。これらの内容は、保育者が子どもの手本になっていないと感じている内容(徳田・水野, 2002)とほぼ一致している。

* 次いで多かった回答は、「怒るとこわい」、「怒ってるの?」などの「保育者が怒ることに関する言葉」(22名)であった。なかには、してはいけないことに対して怒るのは当然であるが、知らず知らずのうちに普段もこわい顔

になっていたようだとの反省している記述がみられた。

* その他には、「保育者の特権を指摘する言葉(先生は特別なんだよね、どうして先生だけおかずが多いの?)」(10名)、「保育活動に関する言葉(ピアノが下手、本当に作れるの?)」(7名)、「表情に関する言葉(疲れてるの?、具合悪いの?)」(5名)などが挙げられた。

② 保育者・保育園・他の子どもに対する否定的な言葉

* 「保育者に対する否定的な言葉」(23名中18名)が最も多く挙げられており、具体的には「きらい」、「こっちにこないで・あっちに行って」、「～先生の方がいい」、「うそつき」、「いじわる」などの言葉であった。

* 「保育園きらい」、「お家に帰りたい」という「保育園に対する否定的な言葉」や「～ちゃんのことがきらい」という「他の子どもに対する否定的な言葉」もみられた。

③ 保育者の年齢・容姿に関する言葉

* 最も多かったのは「年齢に関する言葉(何歳?、若いのか?、髪の毛が白い、シワがいっぱい)」(22名中11名)であった。

* 次いで、「化粧に関する言葉(目の上が青いよ、今日の口紅はピンクだね、お化粧した方がいいよ)」(4名)や「体型に関する言葉(太ってるね、少しやせたら?)」(3名)が挙げられた。

④ 乱暴な言葉・子どもらしくない言葉

* 「バカ」や「うるせー」(それぞれ4名)、「ムカツク」や「ぶっ殺してやる」(それぞれ2名)が挙げられた。

* その他には、ジャングルジムから飛び降りる際の「自殺しよう」、ゲームをしている際の「～ちゃんが死んじゃった」などの言葉がみられた。これらについては、テレビ番組やゲームの影響を心配する声があった。

⑤ 家庭のことにに関する言葉

* 「両親の離婚に関する言葉(パパとママが離婚した、パパは遠くにいるから一人では会いにいけない、ママがほしい)」(11名中6名)が最も多く、次いで「両親のケンカに関する言葉(パパとママがケンカした)」(3名)であった。

* その他には、「パパがお仕事やめちゃった」、「朝ごはんを食べてこなかった」などが挙げられた。

⑥ 子どものことにに関する言葉

* 子どもがケガをした際の「痛いよ」(3名)、また「～ちゃんが泣いているよ」(3名)や「～ちゃんがいないよ」(2名)などの言葉があった。

【参考文献】

徳田克己・水野智美(2002)保育者は子どもの「手本」になり得ているのか, 民病研, 145, 1-13.